



愛隣幼稚園 園だより

.....21. 10月

赤ちゃんはやっぱり...

さて、緊急事態宣言も解除となり、幼稚園での子どもたちの生活は、通常の保育時間に戻ります。2学期の園生活もひと月遅れでやっと本格的に進めていくことができる、と少しほっとしています。しかし、幼児の感染者数が0にならないこと（千葉県の学事課に報告されている数字です。）を考えるとまだしばらくは慎重でいなければと考えています。残念ですが園内での保護者の活動についてはしばらく解禁とせず、徐々に通常に戻していく予定です。先にお知らせした運動会の予定も、現時点では変更せずに進めます。引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら慎重に保育活動を進めていきたいと思ひます。

ところで、これはまったく私事で恐縮ですが、この夏、昨年の次女に続き長女にも子どもが生まれ、私は2人のBABAとなりました。今度は男の子です。私にとって“未知の生物”です。私自身が妹との2人姉妹、私に3人の娘、妹にも2人の娘・・・というわけで、大人になってから身近に男の赤ちゃんが居たことが無いのです。女の子だから、男の子だからという時代では無くなっていますが、“未知の生物”であることに違いはなく、今回も冷静な観察をしたいと思ひましたが、少々うろたえています。何に？泣き声の大きさにです。泣き声が大きい、いや、デカイ！（男の子の親御さんは、そうそうと笑ってくださっているのでしょうか。）私は娘3人育てましたが、赤ちゃんの時に泣き声の大きから窓を閉めようと思ったことはありませんでした。今回は、泣く度に窓を閉めています。ご近所へ気を遣います。夜中も同様ですから、これがお隣に筒抜けだったらと思うと、考えただけで胸がぎゅっと苦しくなりました。親になったばかりの長女も、この1日中続く大きな泣き声に、冷静でいることが本当に難しかったようです。泣いている息子に「うるさいから、静かにして・・・。」となかなか辛辣な言葉で語りかけていたりする様子に、「あかちゃんでもわかるよ。違う言葉にしてあげて。」と言ってはみたものの、これは相当に辛いのだという感じがヒシヒシと伝わってきました。おっぱいが欲しいと泣き、抱っこがいいと泣き、かまってよ〜と泣き、おむつが濡れたと泣く。本当にのべつ幕なしにとんでもなく大きな声で泣くのです。大きな声で激しく泣かれるので、いたたまれず新米ママは抱っこです。置くと泣くのですと抱っこです。抱っこはいいと知っていても、さすがにこれでは何もできない。自分の子育てでこの時期にこの種の苦労はしなかったBABAは、娘に同情しています。心身共に疲労困ぱいの娘に、ほんの少し抱っこの代わりくらいしかできないBABAです。娘が言っていました。「生んで初めて、赤ちゃんの口を押さえてしまう人の気持ちがあったような気がする。」感じたことがない方には背筋の凍るような言葉ですが、私も同じ様なことを親になって初めて経験しました。昨年の12月にも書きましたが、やっぱり赤ちゃんは最初から可愛いと思えるわけじゃないのです。新米ママが『大変だけど可愛い』と思えるようになるためには、**絶対にママを助ける手が必要です**。どのママにも生まれてから数ヶ月は特に手厚く、せめて1年はママもそしてパパも余裕を持って子どもと向き合い、安心して子育てができる環境や制度が整ってほしいな、と心から願うBABAです。でも、それを待つてはいられない。家族だけじゃなく町の中、隣近所にちょっとお節なBABAが増えればやっぱりそれが手っ取り早いかな、とも思ひます。そうそう男の子のお母さん、今度、苦労話を聞かせてください。分かってくれる人がいる。それでほっとする新米ママがいます。